

だよ〜ん Dayon通信

平成28年10月11日(火)

第1号

Visaya dialect : Dayon = English : come in = Japanese : おいで、おいで

お祭りとお食することが大好きなフィリピンは、とりあえず知り合いを見かけたら「Dayon!!」
とって、オフィスや家に招き入れます。まさしく、Filipino culture を表現している単語。
私が最初に現地で覚えたビサヤ語であり、皆さんにもいつかこの町を訪れてもらいたいという熱
い(切実な...) 気持ちがこもっています。

皆さん、ご無沙汰しておりました。青年海外協力隊の隊員としてフィリピン・レイテ島で活動中の
安部由香子です。日本では秋も深まりを見せ、クリスマスや水農祭の準備でお忙しいことと存じます。

私は7月11日にフィリピンに派遣され、8月25日によろやく任
地のレイテ島 マタグオブ町に赴任することができました。約1カ月
半の期間はJICA事務所での講義や語学訓練を行い、今よろやく任
地赴任から1カ月が経ったところです。せっかくいただいた貴重な
機会なので、少しずつ活動報告やフィリピンの文化・歴史などをご紹
介できればと思っています(日本での感覚を忘れないためにも...)。
生徒たちに対しても、海外について考えるきっかけの材料として、何
かの機会に活用していただけたら嬉しいです。



【 フィリピンの印象 】

最初マニラで生活していた時は、ほぼ日本と変わらない生活を送っていました。JICAのドミトリ
ーがあるエリアは、Metro Manilaのなかでもショッピングモールやオフィス街がある中心地マカテ
ィ市で、少し歩いただけで日本食屋やカラオケ(こちらではビデオケといひます)があります。急速
な発展をとげているな〜というのが印象です。

そして、7月下旬に3泊4日の任地ホームステイ。この4日間の体験から、わたしが今までどれ
だけマニラというぬるま湯に浸かっていたのか、と実感させられました。

まずは、レイテの空港に着いてから。30分近く言葉も通じない初
めての島で待たされ、このまま誰も迎えに来ないのでは、と心配して
いたところ、迎えに来たのはなんと、、、**町で使い古された救急車!!!**
生徒の引率でも、自分の急病でもなく、これが救急車に乗った私の初
体験です。その後、この救急車で山をいくつも越えること3時間・・・
そこが私がこれから生活するマタグオブ町です。



もちろん担架とガスボンベ付。カウンターパート曰く、警察のパト
ロールカーより乗り心地がいいから、救急車を選んだとのこと。

町の人たちはとても気さくで、明るく穏やかな人が多い印象です。都会のゴミゴミとした空気とは違い、たくさんの田んぼとヤシの木が一面を覆い、まるで筑波山の麓で生活しているような感覚。ただ一つ強いて言うのなら、**便座は贅沢品**であるということ。どこのトイレにも便座がなく、やすらぎの時間をなかなかつくることのできないのが、悩みの種でした（いまは自分に合う空間を見つけ、トイレショックからも解放されました）。



一面、田んぼ or やま、山、Mt.



市長さん、今日は馬でご出勤



私のいる Agriculture Office

【 フィリピンのあれやこれ 】

フィリピンの一般事情をお伝えします

面積	299,404km ² (日本の8割くらい) 約 7,100 の島々で構成されている
人口	1 億 98 万人
言語	公用語は英語とタガログ語 約 80 の言語がそれぞれの島々で話されている (Leyte 島では東側がワライワライ語で、私がいる西側はビサヤ語)
宗教	基本的にはキリスト教 ミンダナオ島では人口の 2 割がイスラム教で、ISIL に関する組織が存在する地域もある



わたしが住んでいるレイテ島は、太平洋戦争で日本軍とアメリカ軍が上陸戦闘を行った島としても有名です。このなかでも今私が住んでいるレイテ島西側の地区は、日本軍とアメリカ軍が激突した激戦地です。そのような土地で日本人ボランティアとして何ができるのか、これから模索していこうと思います。また、レイテ島の歴史や日本との関わりについても、村人から学び皆さんに少しずつお伝えしていきたいです。



戦争があっても、大きな台風が島を直撃しても、停電になっても水が止まっても、島の人々は常に前向きに明るく毎日を過ごしています。その姿を見ていると、日本に暮らしているだけでは学ぶことのできない、たくさんの考えや知識が彼らに詰まっているのではないかと思います。これからの 1 年 6 ヶ月、どんな発見や学びがあるのか、今からとても楽しみです。

今回はこれからの自分の活動に関する内容を載せることができなかったので、また次の機会にご説明できればと思います。

月に 1 度ペースでは発行できればと思っています。仕事の合間にも、一読いただければ嬉しいです。

